横浜市立瀬ヶ崎小学校　学校便り
せがさきの風
大きな朝日さしのぼる　希望と愛の花が咲く
世界に窓を開け放つ　ここは横浜瀬ヶ崎小学校
瀬小
5月号
2023（令和5）年
4月28日発行
〒236-0037　横浜市金沢区六浦東三丁目２番１号
TEL 781-2446・2447　FAX 701-4892
ホームページ http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/segasaki/
メールアドレス y3segasa@edu.city.yokohama.jp

「せんせい　あのね…」

学校長　日暮　　勤

新年度になり、はや一か月がたとうとしています。昨年度から比べ、上級生になった意識から前向きに学習に取り組み、優しく下級生に関わろうとしている瀬ケ崎小の子どもたちのやる気いっぱいのスタートに私も元気をもらい、期待に胸を膨らませています。

先日、全校児童が「1年生を迎える会」に参加しました。２～６年生からの心を込めてつくったプレゼントを１年生が「ありがとう」と受け取る姿、その１年生からの感謝に笑顔をかえす２～６年生の姿が素敵な会でした。２～６年生はこの日の１年生の姿をみて、自分たちの新入生時代にあたたかく迎えてもらったことを思い出したと思います。瀬ケ崎小の子どもたちが、異学年の心の交流を大切に、毎年積み重ねてきた伝統です。

さて、この１年生をはじめ、多くの子どもが朝の校門や、授業中に教室を回っている時、校長室でのリフレッシュタイムなど色々な出会いの場面で「校長先生、あのね…」と話しかけてきます。自分の今興味のあることや、がんばっていることを「校長先生、あのね…」と伝えようとする心の交流です。話しかけてくる子どもは自分の話を聞いてほしいし、見てほしいし、コメントがほしいと思っています。私はそういう子どもの姿を「いいなあ」と感じ、癒されています。そして、伝えてくれた子ども以上のたくさんの言葉と笑顔で感想を返すことで、話を聴けて嬉しかったことと感謝の気持ちを伝えようと心がけています。

この間、１年生の教室を回っていると、A さんが、私に「校長先生、みてみて！」と近寄ってきました。その後ろにも多くの子どもたちが寄ってみました。この春新しく出会った私にとても嬉しい歓迎です。私は、制作中の画用紙いっぱいに描かれた絵を見せてくれた A さんに、

「この（絵の中の）子は A さん？笑顔がとてもいい！すごく楽しそう。これはいつのことを描いたの？」とコメントしました。感想だけでなく、この絵を描きたいと思った子どもの気持ちを聴くと、子どもはその絵のシーンを思い出しながら一生懸命話してくれました。私がその話に「教えてくれてありがとう」と返すと、満足そうにうなずいて、また制作に夢中になって取り組みはじめました。

「あのね…」と伝えた想い、「伝えてよかった」という想いは、自分の思いが伝わったことへの満足感となり、次にまた伝えようとする気持ちを育みます。こういう伝え合いから自分の話を聴いてもらった経験を活かして、相手の話を上手に受け止めることを学んでいくこともできるのです。

「あのね…」と人に伝えたい想いは、大人になっても大切なものだと学んでいます。話したときに聴いてくれる人がいて、その人が共感してくれることは大人でもうれしいことです。１年生をはじめとして、子どもたちはそのようなつながりを、出会った人たちから毎日学んでいます。

理論社から 1994 年に「一年一組　せんせいあのね」という児童詩集が出版されました。1978 年度から鹿島和夫先生が始めた実践をまとめたこの本は、一年一組の子どもたちが見たこと、聞いたこと、感じたことを自由につづった「あのね帳」から生まれたたくさんの詩とその子どもたちの姿を先生が写した写真、そして灰谷健次郎さんとの対談から描き出された教室の楽しさがまとめられています。この詩集の舞台となる教室を想像すると、私に話しかけてくれる子どもたちを通して、瀬ケ崎小と鹿島級がオーバーラップします。思ったことを「あのね…」と自由に伝えられる学校。その表現を楽しむ子どもたち。コロナの感染の不安も少なくなってきた今、伝えられたことをその子らしく受け止める仲間とともに、「あのね…」の伝え合いを存分に楽しんでほしいと思います。

私も「先生　あのね…」といろいろな話を子どもから聞かせてもらい、お互いが話をできてよかったと思えるつながりをつくりながら、たくさんの思いを返していきたいと思います。